

6月は男女雇用機会均等月間です。今月は、「ワーク・ライフ・バランスの実現を目指して～女性の活躍する企業から」と題し、女性の活躍推進をはじめ全社員のワーク・ライフ・バランス実現を進められている、帝人株式会社ダイバーシティ推進室長 日高氏のコラム、その他ワーク・ライフ・バランスに関する施策紹介や最新の動き等についてお送りします。

.....

(目次)

《コラム》

「ワーク・ライフ・バランスの実現を目指して～女性の活躍する企業から」

帝人株式会社 人財室ダイバーシティ推進室長 日高乃里子氏

《制度施策紹介 ～人事担当の皆様へ～》

●両立支援の取組をはじめてみませんか～従業員の仕事と家庭の両立支援推進のためのアイデア集を発行～【厚生労働省】

《企業事例紹介》

●休暇を積極的に楽しもう！「ポジティブ・オフ」運動 取組事例を掲載中！【観光庁】
他

《最新情報》

●お知らせ

・「メンター制度導入・ロールモデル普及マニュアル」を発行【ポジティブ・アクション展開事業研究会（平成24年度厚生労働省委託事業）】 他

●地方公共団体等の動き

・平成25年度「北海道両立支援推進企業表彰」表彰企業の募集【北海道】（2013年5月）
他

●イベント（開催日順に掲載）

・男女共同参画週間記念事業ひょうごフォーラム【主催：兵庫県、神戸市】 他

《統計・調査トピックス》

●ダイバーシティと女性活躍の推進【企業活力とダイバーシティ推進に関する研究会（平成23年度経済産業省委託事業）】（2012年2月） 他

.....

《コラム》

「ワーク・ライフ・バランスの実現を目指して～女性の活躍する企業から」

帝人株式会社 人財室ダイバーシティ推進室長 日高乃里子氏

1990年代、帝人はグローバルに事業を展開させていた。会議に出席する欧米企業の幹部の中には、多くの女性の姿がある。「自社でも、このような会議に出席できる女性社員を育てねばならない」。当時の安居祥策社長（現中小企業金融公庫総裁）の強い想いに基づき、帝人は女性活躍推進に取り組んだ。1999年12月に「女性活躍委員会」を設立し、翌年10月、専任組織である「女性活躍推進室」を立ち上げた。人事制度改革、研修等の企画を推進し、2007年「ダイバーシティ推進室」に、名称変更し、ミッション拡大をしている。帝人グループではこれまで、その対象として女性の活躍推進に注力してきた。それは、女性の採用を増やすとともに、働き続けやすい環境を整えながら、管理職に積極的に登用し、会社に大いに貢献していただくことを期待するものである。環境整備については、「ワーク・ライフ・バランス」の視点から、在宅勤務制度や短時間勤務制度、フレックスタイム制など仕事と生活を両立しやすい選択肢を整えてきており、女性管理職数は当時の10倍となった。また、その中でのワーキングマザーの数も半数を占める。

女性の活躍を推進することは、ダイバーシティ推進の試金石である。異質を認め合い、多様な価値観・発想を受け入れ、inclusionすることで市場環境の変化に対応し、新しい企業価値の創造や社員の生きがい・働きがいを実現しようとするものである。社員一人一人が「違いにこそ価値がある」ことを理解し、個々の持てる能力を精一杯発揮、切磋琢磨しながら新しい価値創造に挑戦する、そんないきいきとした集団になることを今後も目指していきたい。

先日、奥林康司先生（大阪国際大学副学長）にいただいた言葉を最後に記したい。「社員のワーク・ライフ・バランスを推進することは、社会のサステナビリティである「命をつなぐ」ことにつながる。会社がサステナブルに働ける環境を提供することで、社員が社会や会社のサステナビリティな発展に貢献していくという関係性が成立していく。」

.....

《制度施策紹介～人事担当の皆様へ～》

●両立支援の取組をはじめませんか～従業員の仕事と家庭の両立支援推進のためのアイデア集～を発行【厚生労働省】

厚生労働省では、「中小企業における両立支援推進のためのアイデア集（改訂版）」および「仕事と介護の両立支援推進のためのアイデア集」を作成しました。両立支援推進のための制度導入に関する好事例等が記載されています。

⇒

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyoukintou/ryouritsu_shien/

.....

《企業事例紹介》

●休暇を積極的に楽しもう！「ポジティブ・オフ」運動 取組事例を掲載中！【観光庁】

・東京モノレール株式会社

東京モノレール株式会社では、社員の約 8 割を占める現業部門は、全員が交代勤務制で働いており、現場では誰がいつ休暇を取っても業務が回るよう予備要員を含めた要員計画を立てている。鉄道業の特性から 1 日に休暇を取れる人数には制限はあるが、有給取得率は毎年ほぼ 100%となっている。

一方、管理部門では、1992 年から有給取得率が 50%以下と現業部門と比較し休暇の取得が進まなかったことを改善するため、7 月 1 日から 9 月 30 日の夏休みの期間に、土日を絡めて 3 連休を 2 回、4 連休を 1 回取得することを社員に義務付けた。

社員は、前月の 25 日までに翌月の休暇取得日を申請し、チーム内で事前に調整を行うことで、希望に沿った取得が可能となり、業務に支障が出ないよう工夫をしている。

「ポジティブ・オフ」運動 取組企業・団体の事例掲載中！

⇒ http://www.mlit.go.jp/kankocho/positive-off/torikumi/page02_000049.html

●テレワークの導入、活用企業について

・明豊ファシリティワークス株式会社

明豊ファシリティワークス（株）は、コンストラクションマネジメントサービス（建設事業において顧客の立場から事業の全体マネジメントを行うサービス）を提供しており、優秀な人材の確保や生産性向上等のため、10 数年前からテレワークを導入している。

社員全員がスケジュール表に個々の仕事内容コードと所要時間を入力し、プロジェクト担当者はプロジェクトコードも入力する。予定と実際の行動が異なった時はデータを変更後、自社開発のシステムに登録する。これらの情報を社内で共有することで、一人ひとりの負荷状況に基づき仕事を配分し、生産性やサービス品質の向上、人材育成等に活用している。また、社員の状況に応じて在宅勤務をフレキシブルに認めており、例えば時間面等で制限がある場合には、営業職から企画職へ異動し、自己の営業経験から営業を支援することで活躍し続ける等している。これにより、多くの優秀な女性社員がテレワークを活用して、家庭の事情による退職を回避している。

このように、限られた時間と場所で働く女性社員が、成長しながら働くことが出来る環境を整え、優秀な人材を確保した結果、高い顧客満足度を得ている。

.....

《最新情報》（原則として、発行月の前月以降に更新された内容を掲載しています。）

●お知らせ

・「メンター制度導入・ロールモデル普及マニュアル」を発行【ポジティブ・アクション展開事業研究会（平成 24 年度厚生労働省委託事業）】（2013 年 5 月）

女性社員の活躍を促進するために有効な方法とされている「メンター制度」および「ロ

ールモデルとなる人材の育成」を社内に導入し、展開していくための冊子「メンター制度導入・ロールモデル普及マニュアル」を発行しました。

⇒ <http://www.mhlw.go.jp/topics/koyoukintou/2013/03/07-01.html>

・待機児童解消加速化プランの支援パッケージの概要について【厚生労働省】(2013年6月)

厚生労働省では、この度、待機児童解消加速化プランの支援パッケージとして安心こども基金管理運営要領の改正を行い、地方公共団体に発出し、その概要をまとめましたので、お知らせします。

⇒ <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000033u1z.html>

・3年間の育児休暇中小企業アンケート108社が回答【フジサンケイビジネスアイ】(2013年6月)

フジサンケイビジネスアイが、中小・ベンチャー企業を対象に、育休3年の賛否を問うアンケートを実施した結果、賛成が45%と半数近くを占めました。「反対」は27%、「わからない・どちらともいえない」は28%でした。

⇒ <http://www.sankeibiz.jp/business/news/130605/bsl1306050504006-n1.htm>

・子育て同盟サミットを開催【子育て同盟】(2013年6月)

現場の声を活かした子育て支援を地方から発信しようと組織した「子育て同盟」の加盟県知事が、今後の少子化対策、子育て支援施策について協議・情報共有することを目的に、平成25年7月28日、鳥取県米子市にて、子育て同盟サミットを開催します。

⇒

<http://db.pref.tottori.jp/pressrelease.nsf/webview/16BB13137A25331C49257B88000D8012?OpenDocument>

・平成24年人口動態統計月報年計(概数)の概況【厚生労働省】(2013年6月)

結果のポイントとしては、「出生数は、103万7千人(対前年1万4千人減少)」「合計特殊出生率は、1.41(対前年0.02ポイント上昇)」などが挙げられています。

⇒

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai12/dl/gaikyou24houdou.pdf>

・平成25年版男女共同参画白書を公表【内閣府】(2013年6月)

平成25年版男女共同参画白書を閣議決定・公表しました。特集として、「成長戦略の中核である女性の活躍に向けて」をテーマに取り上げました。このほか、ワーク・ライフ・バランス、男性、子どもにとっての男女共同参画、女性に対する暴力等の幅広い分野の現

状や政府の施策についても、掲載しています。

⇒ http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/index.html

・平成 25 年版「少子化社会対策白書」を公表【内閣府】(2013 年 6 月)

平成 25 年版少子化社会対策白書を閣議決定・公表しました。第 2 部第 4 章で、「ワーク・ライフ・バランスの実現」について記載されています。

⇒ <http://www8.cao.go.jp/shoushi/whitepaper/index-w.html>

●地方公共団体の動き

・平成 25 年度「北海道両立支援推進企業表彰」表彰企業の募集【北海道】(2013 年 5 月)

北海道では、労働者の仕事と家庭の両立を促進するため、育児・介護休業制度等の取組を積極的に推進している企業を募集しています。対象は、道内に本社又は主たる事業所を置き、常時雇用する労働者が 300 人以下の企業です。

(応募締切：平成 25 年 7 月 31 日)

⇒

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/rkr/rsf/yutori/ryouritu/ryourituhyousoyo/Ryourituhyousoyoukigyouboshu.htm>

・ワーク・ライフ・バランス企業担当者交流会を開催【神奈川県】(2013 年 5 月)

神奈川県では、ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業を支援するため企業担当者交流会を開催します。第 2 回は 7 月 23 日(火)講師は渥美由喜氏(厚生労働省政策評価委員)で川崎、第 3 回は 8 月 28 日(水)講師は小曾根由実氏(みずほ情報総研株式会社コンサルタント)で横浜にて開催予定です。定員は各回 30 名、無料です。

⇒ <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f4363/>

・ワーク・ライフ・バランス推進のためのコーディネーター派遣希望企業を募集【新潟県】(2013 年 6 月)

新潟県では、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組む県内中小企業を支援しています。現在、コーディネーターを派遣を受け、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組むモデルとなる企業を募集しています。(申込受付期間：平成 25 年 7 月 31 日)

⇒ <http://www.pref.niigata.lg.jp/roseikoyo/1356759284627.html>

・ワーク・ライフ・バランス推進リーダー養成講座の受講者を募集【新潟県】(2013 年 6 月)

新潟県では、県内中小企業の経営者、役員、人事・労務・総務の担当者等に、ワーク・ライフ・バランス推進の意義や手法、ノウハウを学んでいただき、経営戦略としてワーク・

ライフ・バランスを推進する企業内リーダーを養成する講座（無料、7月～11月に計5回、定員30名）を開催します。（申込締切：平成25年7月1日）

⇒ <http://www.pref.niigata.lg.jp/roseikoyo/1356759355105.html>

・『煌めく女性リーダー塾』（第1期）塾生募集！【富山県】（2013年6月）

富山県では、今年度新たな取組みとして、県内企業等における女性の活躍を推進するため、リーダーをめざす女性社員等の相互交流と自己研鑽を図る『煌めく女性リーダー塾』を開講します。（締切7月4日）

⇒ http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1712/kj00013172.html

・「女子シャイン cheers チアーズ」会員募集【京都府】（2013年6月）

京都府では、「働く女性応援事業」として、女性の就業継続やステップ・アップを支援するためのネットワーク「女子シャイン cheers チアーズ」の会員を募集中です。

⇒ http://www.pref.kyoto.jp/wlbsuisin/topics/cheers_2013.html

・平成25年度「キーパーソン養成講座」実施【兵庫県／ひょうご仕事と生活センター】（2013年6月）

ひょうご仕事と生活センターでは、昨年に引き続き、キーパーソン養成のための連続講座（全4回、4回目は各自のプラン発表）を開催します。（締切7月26日）

⇒

http://web.pref.hyogo.lg.jp/press/20130612_ad51ae29af9f3c1849257b880005ae05.html

・平成25年度ワーク・ライフ・バランス推進企業表彰【香川県】（2013年5月）

香川県では、仕事と生活の調和を実現するために、カエル（Change）かがわキャンペーンに取り組み、働きやすい職場環境づくりを推進しています。ワーク・ライフ・バランスの推進に積極的に取り組んだ企業等を表彰します。（応募期限：平成25年12月27日）

⇒ <http://www.pref.kagawa.lg.jp/rosei/fukushi/mark-koufu.html>

・ワーク・ライフ・バランス啓発リーフレットを発行【大分県】（2013年4月）

大分県では、ワーク・ライフ・バランスを県下の企業で進めていただくために、県の取組を紹介したリーフレットを作成しました。ワーク・ライフ・バランスは、企業にとって、品質・生産性の向上や優秀な人材の確保につながる有効な経営戦略であることに加え、家族介護の対応や女性労働力の活用といった課題解決のためにも、有効なツールと考えられています。

⇒ <http://www.pref.oita.jp/site/oitarodo/workkosodate-2013leaflet.html>

・平成 25 年度男女共同参画推進事業者表彰【熊本県】(2013 年 6 月)

熊本県では、男女共同参画の職場づくりに積極的に取り組んでいる事業者（企業又は団体）を熊本県知事が表彰する「男女共同参画推進事業者表彰」を行っています。「仕事と生活の調和の推進」を含むいずれかに該当する取組を行っている事業者の方は、ぜひ応募下さい。（募集期間：平成 25 年 7 月 31 日まで）

⇒ <http://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/134/hyoushou25.html>

・ワーク・ライフ・バランス推進アドバイザーを派遣【東京都中央区】(2013 年 4 月)

中央区では、仕事と子育て・介護の両立支援や長時間労働の削減など働きやすい職場づくりに取り組みたい、またはさらに取り組みを向上させたい事業所に、専門のアドバイザーを派遣します。（募集期間：平成 25 年 4 月 22 日～平成 25 年 12 月 20 日）

⇒

https://www.city.chuo.lg.jp/kurasi/danzyokyodosanga/soumu_20091113133050498/index.html

・板橋区ワーク・ライフ・バランス推進企業表彰【東京都板橋区】(2013 年 5 月)

板橋区では、仕事と生活の両立支援や、男女がともに働きやすい職場環境に取り組む中小企業等を、ワーク・ライフ・バランス推進企業として表彰します。（募集期間：平成 25 年 6 月 10 日～平成 25 年 9 月 9 日）

⇒ http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_kurashi/044/044880.html

・「真のワーク・ライフ・バランス」実践エピソードの募集【京都府京都市】(2013 年 6 月)

京都市では、このたび「真のワーク・ライフ・バランス」の考え方を、具体例を通してより多くの方々に知ってもらうため、実践エピソードを広く募集します。（募集期間：平成 25 年 9 月 20 日まで）

⇒ <http://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/page/0000150255.html>

●イベント（開催日順に掲載）

・男女共同参画週間記念事業ひょうごフォーラム【主催：兵庫県、神戸市】

日時 平成 25 年 7 月 8 日（月）13:30～15:30

場所 クリスタルホール

講演 「変わる男性の生き方」～どうする？仕事と介護の両立～

厚生労働省政策評価に関する有識者会議委員、株式会社東レ経営研究所ダイバーシティ&ワークライフバランス研究部長 渥美由喜氏

定員 200 名（先着順）

参加費 無料

⇒ <http://www.hyogo-even.jp/25hyogoforum.pdf>

・ワークライフバランス研修会【主催：東京都】

(1) 亀戸

日時 平成 25 年 7 月 12 日 (金) 14:00~16:00

場所 江東区亀戸文化センター5階研修室

講演 「ワークライフバランスの必要性と企業で実現するためには？」
大西綾子氏 (特定社会保険労務士)

対象 使用者、人事労務担当者、その他関心のある方 50名 (先着順)

参加費 無料

⇒ http://www.hataraku.metro.tokyo.jp/equal/ryoritu/kensyuu/kameido_kiso.html

(2) 池袋

日時 平成 25 年 7 月 24 日 (水) 15:00~17:00

場所 東京都労働相談情報センター池袋事務所3階セミナー室

講演 「中小企業の危機管理ワークライフバランスを知る～少子・大介護時代の経営戦略～」

渥美由喜氏 (東レ経営研究所ダイバーシティー&ワークライフバランス研究部長)

対象 都内中小企業の使用者、人事労務担当者 60名 (先着順)

参加費 無料

⇒ http://www.hataraku.metro.tokyo.jp/equal/ryoritu/kensyuu/ikebukuro_kiso.html

(3) 国分寺

日時 平成 25 年 7 月 22 日 (月) 14:30~16:30

場所 東京都国分寺労政会館4階第5会議室

講演 「会社も従業員も成長するワークライフバランス～これからの時代に求められる職場環境づくり～」

矢島洋子氏 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社主任研究員)

対象 使用者、人事労務担当者、その他関心のある方 50名 (先着順)

参加費 無料

⇒ http://www.hataraku.metro.tokyo.jp/equal/ryoritu/kensyuu/kokubunji_kiso.html

.....

《統計・調査トピックス》

今月のテーマおよびワーク・ライフ・バランスに関連した調査についてご紹介します。

●ダイバーシティーと女性活躍の推進【企業活力とダイバーシティー推進に関する研究会 (平成 23 年度経済産業省委託事業)】(2012 年 2 月)

本研究会では、グローバル競争の中で我が国企業が勝ち残っていくためには、女性活躍推進を中心としたダイバーシティ推進を経営戦略の中軸に位置づけて積極的に展開すべきとの問題意識から、ダイバーシティ推進による経営効果（先進事例研究及びデータ分析）、ダイバーシティ推進に向けた課題と改革の方向性等について検討されました。報告書中、「ダイバーシティ推進（女性活躍推進）に向けた現状と課題」や「ダイバーシティ推進（女性活躍推進）の普及促進のための具体的方策」の中で、WLBの有用性について記載されています。

⇒ <http://www.meti.go.jp/press/2011/03/20120301003/20120301003-2.pdf>

●男性の育児・介護と働き方～今後の研究のための論点整理～【独立行政法人労働政策研究・研修機構】（2013年5月）

家庭や職場における男女の関係性に着目して、仕事と家庭の両立支援の課題を明らかにし、特に男性の育児・介護については研究の蓄積が浅いため、重点的に検討した結果が述べられています。主な事実発見として、「男性労働者の育児参加においては、これまでも指摘されてきたことではあるが、1日あたりの労働時間が長いことが大きな阻害要因である。加えて、既存研究では注目されてこなかった点であるが、土・日曜日や祝日の勤務も、男性の育児参加を低くし、仕事と家庭生活の両立に関する悩みの種となっていることが分析結果から示唆される」等が挙げられています。

⇒ <http://www.jil.go.jp/institute/chosa/2013/13-118.htm>

●「多様な正社員」の人事管理に関する研究【独立行政法人労働政策研究・研修機構】（2013年5月）

昨今、その普及が望まれる「多様な正社員（限定正社員）」について、導入の際の留意点についても明らかにし、普及の促進に貢献することを目的に、検討しました。主な事実発見として、「限定正社員の働き方の自己評価は、働き方に限定のない正社員のそれと比べて、必ずしも低くなく、限定正社員の労働条件が働き方に限定のない正社員の労働条件より低いとしても、働き方に限定があることによりその「低さ」が相殺されていることが示唆された。そして、非正社員から限定正社員への登用が行われていない事業所に限定するならば、職種に限定があることによるメリット、勤務地に限定があることによるメリットが確認された。」等が挙げられています。

⇒ <http://www.jil.go.jp/institute/reports/2013/0158.htm>

.....

《編集後記》

望ましいワーク・ライフ・バランスの在り方や、それを実現する方法は人によって様々です。自分にとってワーク・ライフ・バランスは、仕事帰りに友人たちと杯を交わせることや、週末には買い物に出かけ、のんびりと食事ができること、でしょうか。忙しいときもあるけれど、仕事と生活、どちらも満足できるような上手な時間の使い方を身に着けたいものです。(あ)

.....